



矢野 晴彦

佐藤 克之

齊藤 省司

稲葉 政文

遠藤 節

加藤 繁木

鴨川てんし



増山 浩一

小沢 俊明

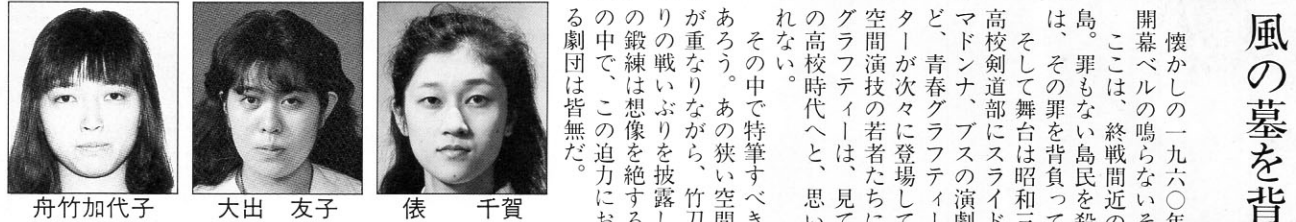
奥野 弘明

服部 博行

小嶋 章

渡辺 裕

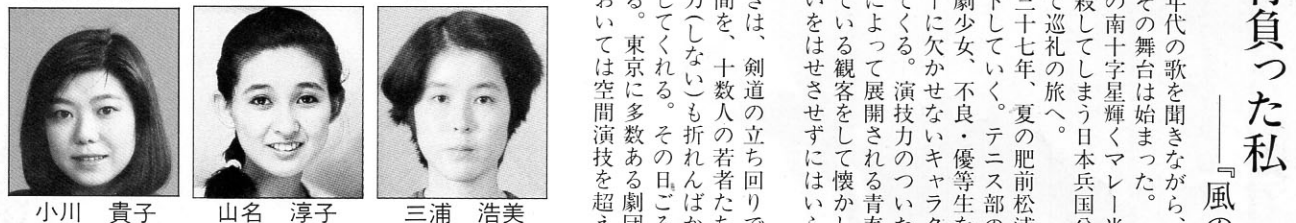
三上 伸行



舟竹加代子

大出 友子

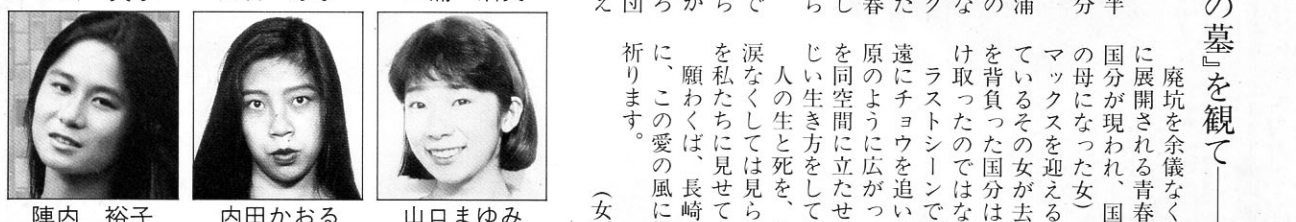
俵 千賀



小川 貴子

山名 淳子

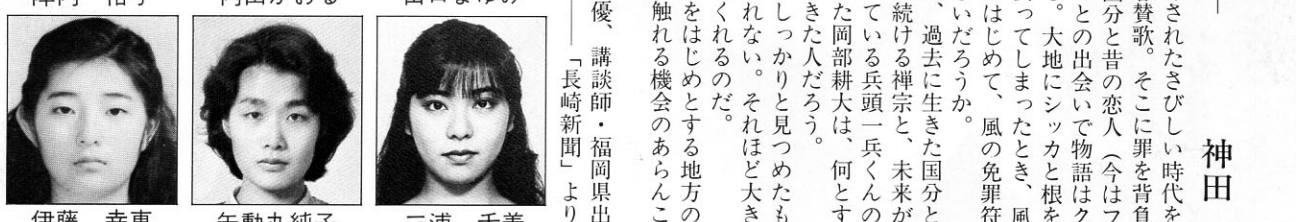
三浦 浩美



陣内 裕子

内田かおる

山口まゆみ



伊藤 幸恵

矢動丸純子

三浦 千美

風の墓を背負った私

『風の墓』を観て

神田 紅

懐かしの一九六〇年代の歌を聞きながら、開幕ベルの鳴らないその舞台は始まった。ここは、終戦間近の南十字星輝くマレー半島。罪もない島民を殺してしまふ日本兵国分は、その罪を背負って巡礼の旅へ。

そして舞台は昭和三十七年、夏の肥前松浦高校剣道部にスライドして行く。テニス部のマドンナ、ブスの演劇少女、不良・優等生など、青春グラフィティーに欠かせないキャラクターが次々に登場してくる。演技力のついた空間演技の若者たちによって展開される青春グラフィティーは、見ている観客をして懐かしの高校時代へと、思いをはせさせずにはいられない。

その中で特筆すべきは、剣道の立ち回りであらう。あの狭い空間を、十数人の若者たちが重なりながら、竹刀(しない)も折れんばかりの戦いぶりを披露してくれる。その日ごろの鍛錬は想像を絶する。東京に多数ある劇団の中で、この迫力においては空間演技を超える劇団は皆無だ。

廃坑を余儀なくされたさびしい時代を背景に展開される青春賛歌。そこに罪を背負った国分が現われ、国分と昔の恋人(今はフツの母になった女)との出会いで物語はクライマックスを迎える。大地にシッカと根を下しているその女が去ってしまったとき、風の墓を背負った国分ははじめて、風の免罪符を受け取ったのではないだろうか。

ラストシーンで、過去に生きた国分と、永遠にチョウを追いつける禪宗と、未来が大海原のように広がっている兵頭一兵くんの三人を同空間に立たせた岡部耕大は、何とすさまじい生き方をしてきた人だろう。

人の生と死を、しっかりと見つめたものは涙なくしては見られない。それほど大きな愛を私たちに見せてくれるのだ。

願わくば、長崎をはじめとする地方の皆様、この愛の風に触れる機会のあることを祈ります。

(女優、講談師・福岡県出身)
「長崎新聞」より

結子

下北沢東通り
(本多劇場並び)
☎465-7107

子茶



電話 三五〇七六三四
新宿区新宿三三三〇三

やさしさに充つ居酒屋

劇団員 研究生 文芸演出部 スタッフ

15周年を記念して、さらなる飛躍のために劇団「空間演技」では
を一般より公募しております。
写真、履歴書を左記までお送り下さい。

劇団「空間演技」
電話二〇五一七六九
〒160 新宿区歌舞伎町二八二